

合板加工機を更新

今年中に工事部門も強化

村上木材

村上木材(大阪市、

佐原謙次社長)は、2

月にグループ会社プレ

テック(同、矢山勝司

社長)の合板加工機

(宮川工機MPD-

11)を更新した。昨年

5月に羽柄加工機も増

設し、今後は人手の確

保が課題になると考え

ている。既に今年度

から10人体制にし、新

人教育に力を注いでい

加工能力は年間7万坪

(構造材・羽柄材)。

村上木材は原木丸太

調達、住設機器の邸別

配送、施工管理などを

手掛けていて、今まで

手薄だった工事部門の

強化を図る方針だ。今

年中には、プレテック

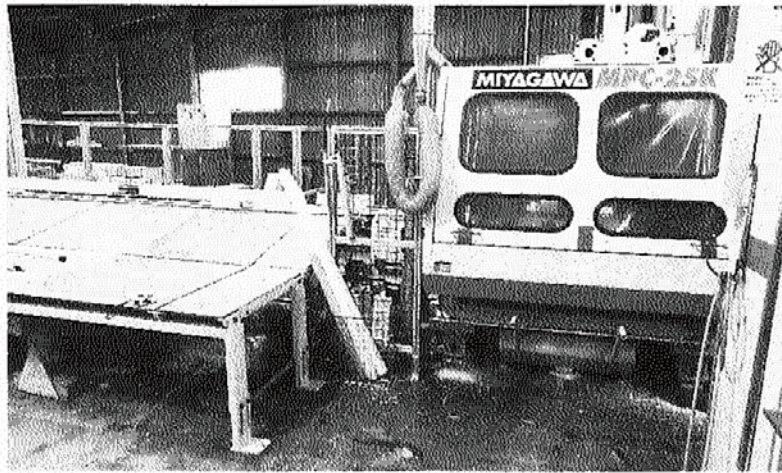
と協力しながら建て方

や上棟工事をサポート

する体制を整える。こ

れが確立されれば、原

工から構造計算、建てて1カ所に移転した。工場の敷地も160坪から2000坪と



設備を更新し順調に稼働している

とが可能と若干ながら大きくなり、同社た。現状で増産する計ではグループ画はないものの、もうプ全体で営業・提案力もあるため、新しい付の強化につ加価値を付けられるよながると考うなラインを検討する。

プレテック働きやすさの面でもクは、昨年従業員が工場と倉庫を11月に道路往復する必要もなくなを隔ててはり、加工や荷積み荷下らばらだっるしといった配送手配た工場と倉の効率が上がった。そ庫を平林北のほか、CAD部門をから村上木材の本社内に移材の所在地し、村上木材の営業部である平林門とまとまって仕事に南にまとめ取り組めるように体制を整え、両社間の連携をより密なものにした。